

夏山山岳 救助訓練

平成19年7月27日
小天狗岳



▲後発部隊のために、木に目印を



▲山麓ふもとに集合、いざ出動！

表① 市内にある山岳の標高順位（抜粋）

	山名	標高(m)	所在地
1	余市岳	1,488.1	南区定山溪～赤井川村
2	無意根山	1,464	南区定山溪～京極町
3	中岳	1,387.8	南区定山溪～京極町
4	漁岳	1,318.0	南区定山溪～恵庭市～千歳市
5	白井岳	1,301.6	南区定山溪
6	狭薄岳	1,296.1	南区定山溪
7	札幌岳	1,293.3	南区小金湯・定山溪
8	朝里岳	1,280.8	南区定山溪～小樽市～赤井川村
9	空沼岳	1,251.0	南区簾舞・定山溪～恵庭市
10	小漁山	1,235.2	南区定山溪～千歳市
11	長尾山	1,211	南区定山溪～京極町
12	喜茂別岳	1,176.9	南区定山溪～喜茂別町～京極町
13	天狗山	1,144.9	南区定山溪
14	烏帽子岳	1,109.7	南区定山溪
15	美比内山	1,071	南区定山溪～京極町
16	百松沢山	1,038.1	南区定山溪～西区平和
17	手稲山	1,023.7	西区平和～手稲区手稲金山
18	迷沢山	1,005.7	南区定山溪
37	藻岩山	531.0	南区藻岩山
49	モエレ山	61.7	東区モエレ沼公園

南 消防署に山岳救助隊が配置されたのは、平成13年のこと。当時は、アウトドア志向の高まりと登山ブームによる中高年登山者の増加もあり、山岳事故が急激に増加していました。特に、標高千メートルを超える山が17座ある南区では（全市で18座・左表①参照）、山菜採りや登山時の事故が増加。しかし、山岳救助は特殊な知識や技術が必要とする上に、消防署には山岳救助専用の器材も無く、救助活動を行うことが困難でした。このため、南消防署に山岳救助隊を配置し、訓練を行うことで技術向上に努める

とともに、必要な器材の整備も行いました。さらに、平成19年4月には、同署の定山溪出張所にも山岳救助隊を配置。これにより、定山溪周辺の山岳事故に対しても、迅速に対応することができるようになりました。

山 岳事故の主な形態は、山菜採りや登山、スキ―中に、滑落・転倒したものが急病や、遭難事故などです（下表②参照）。救助要請は、事故に遭った本人や同行者の携帯電話からあるいは家族や友人、職場などから入ります。通報者に本

出動するのは、南消防署の山岳救助隊と同定山溪出張所の山岳救助隊約10人のほか、救助隊を支援する消防隊、上空から負傷者や遭難者を発見するヘリコプターなどで、合わせて30人以上が捜索・救助に当たります。本人や同行者から救助要請があった場合は、位置がある程度特定できるため、連絡を受けたその日のうちに救助できることもありませんが、遭難事故の場合は、救助活動が数日に及ぶこともあります。

表② 平成13～19年の山岳救助事案件数

	滑落・転倒	急病	遭難等	計
13年	6	2	6	14
14年	4	4	15	23
15年	3	7	8	18
16年	3	4	12	19
17年	7	1	11	19
18年	6	3	13	22
19年	2	1	10	13
計	31	22	75	128

人の名前や年齢、性別、服装、事故や負傷の状況、場所などを聞き取り、直ちに行動します。

▼スノーシューを装着し現地へ



▼出発前に隊長が状況を説明



冬山山岳 救助訓練

平成20年2月15日
藤野すずらんゴルフ場

